

Citation 7

Publication number: 5-78738

Date of Publication: 10.26.1993

Application number: 3-48458

Date of Filing: 04.03. 1991

Applicant: Takashi Saitoh (individual)

Title of the Device: Building Member

Abstract:

1) Purpose: To obviate, when a building member is severed or nailing is carried out on the building member, operations to measure the positions.

2) Parallel lines 2 and 4 are displayed on the surface vertically and horizontally at a predetermined interval. Distances of the parallel lines from the end are displayed on the surface in figures 3, 5. A sheet on which parallel lines 2, 4 and figures 3, 5 are displayed is detachably adhered to the surface of base plate 1.

(19)日本特許庁 (JP)

## (12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-78738

(43)公開日 平成5年(1993)10月26日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

識別記号 庁内整理番号

F I

技術表示箇所

E 04 C 2/30

X 7904-2E

審査請求 未請求 請求項の数8(全2頁)

(21)出願番号 実願平3-48458

(22)出願日 平成3年(1991)4月3日

(71)出願人 591029840

斎藤 隆

大阪府守口市梶町1丁目52番4号

(72)考案者 斎藤 隆

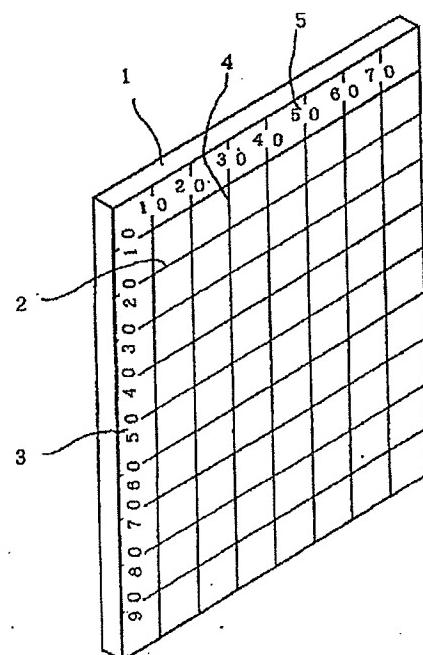
守口市梶町1丁目52番4号

(54)【考案の名称】 建設部材

## (57)【要約】

【目的】 建設部材を切断したり、釘打ちする際に、それらの位置を計測する作業を省略する。

【構成】 表面に所定間隔で平行線2、4が縦横に表示され、各平行線2、4に端部からの距離が数字3、5で表示されている。基材1の表面に、平行線2、4や数字3、5が表示されたシートが剥離可能に接着されているよい。



(2)

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 基材の表面に所定間隔で平行線が表示されていることを特徴とする板状の建設部材。

【請求項2】 平行線は、縦横に表示されている請求項1記載の建設部材。

【請求項3】 各平行線に、当該平行線と平行な端縁からの距離が表示されている請求項1若しくは請求項2記載の建設部材。

【請求項4】 建設物として完成された状態での不可視面に、平行線が表示されている請求項1ないし請求項3のいずれかに記載の建設部材。

【請求項5】 板状の基材の表面に、所定間隔で平行線が表示されているシートが剥離可能に接着されている建設部材。

【請求項6】 シートには平行線が縦横に表示され、各平行線に、当該平行線と平行な端縁からの距離が表示されている請求項5記載の建設部材。 \*

\* 【請求項7】 延在方向に沿って、所定間隔で前記延在方向と直交する方向に平行線が表示されていることを特徴とする線状若しくは棒状の建設部材。

【請求項8】 平行線は、実線若しくは点線にて形成されている請求項1ないし請求項7のいずれかに記載の建設部材。

## 【図面の簡単な説明】

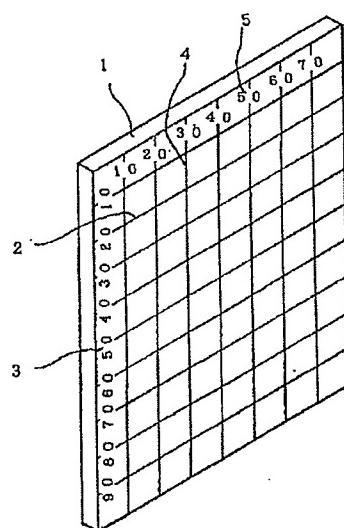
【図1】第1の実施例の斜視図である。

【図2】第2の実施例の斜視図である。

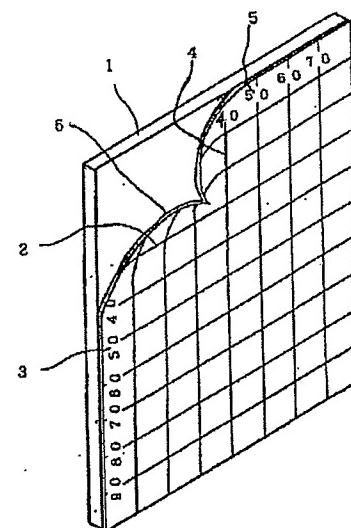
## 【符号の説明】

- 1 基材（積層合板、アクリル板）
- 2 平行線
- 3 数字
- 4 平行線
- 5 数字
- 6 シート

【図1】



【図2】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、切断可能な建設部材に関するものである。

**【0002】****【従来の技術】**

従来から、切断可能な建設部材として、合板、プラスチック板、珪酸カルシウム板、ガラス繊維板、金属板、パーティクルボード等の平板や、軽量鉄骨、電線等各種の部材が製造販売されているが、いずれもその表面には寸法等を表示するマーク等は付されていなかった。

**【0003】****【考案が解決しようとする課題】**

前述のように、従来の技術では、建設部材には寸法等を表示する手段は形成されていないので、この建設部材を切断したり、所望の部位に釘打ちや鉛留めを行う際にその寸法を計測する必要があった。

従って、寸法計測のための段取りに時間を要していた。

**【0004】****【課題を解決するための手段】**

第1の主要な考案は、基材の表面に所定間隔で平行線が表示されていることを特徴とする板状の建設部材である。

**【0005】**

第2の主要な考案は、板状の基材の表面に、所定間隔で平行線が表示されているシートが剥離可能に接着されている建設部材である。

**【0006】**

第3の主要な考案は、延在方向に沿って、所定間隔で前記延在方向と直交する方向に平行線が表示されていることを特徴とする線状若しくは棒状の建設部材である。

**【0007】****【作用】**

第1の主要な考案では、基材の表面に所定間隔で平行線が表示されているので、当該平行線を目安に切断や釘打ち等を行えば、寸法計測作業は不要となる。

#### 【0008】

第2の主要な考案では、板状の基材の表面に、所定間隔で平行線が表示されているシートが剥離可能に接着されているので、当該平行線を目安に切断や釘打ち等を行い、その後前記シートを剥離すれば寸法計測作業は不要となる。また、建設部材自体に平行線は表示されていないので、可視表面となつても表面処理をする必要はない。

#### 【0009】

第3の主要な考案では、延在方向に沿って、所定間隔で前記延在方向と直交する方向に平行線が表示されているので、当該平行線を目安に切断を行えば、寸法計測作業は不要となる。

#### 【0010】

##### 【実施例】

図面はいずれも本考案の実施例を示し、図1は第1の実施例の斜視図、図2は第2の実施例の斜視図である。

#### 【0011】

図1において、1は厚さが1cmないし数cm、面積が1m<sup>2</sup>ないし3m<sup>2</sup>程度の長方形の、基材としての積層合板で、少なくとも一方の表面に水平方向に延在する複数の平行線2が10cm間隔で表示され、当該平行線2の一端（図では左端）に、平行線2と平行な側縁（図では上縁）からの距離を表示する数字3が記載されている。

#### 【0012】

また、前記表面に鉛直方向に延在する複数の平行線4が10cm間隔で表示され、当該平行線4の一端（図では上端）に、平行線4と平行な側縁（図では左側縁）からの距離を表示する数字5が記載されている。

#### 【0013】

従って、前記平行線2、4に沿って切断したり、各平行線2、4の交点に釘打ちや鉛留めを行えば、予め寸法計測をする必要はない。

**【0014】**

なお、この実施例においては、積層合板1の、建設物として完成された状態での不可視面に、平行線2、4が表示されており、当該平行線2、4は建設物として完成され後も消去する必要はない。

**【0015】**

図2において、1は厚さが2cm程度、面積が1m<sup>2</sup>程度の、基材としての長方形のアクリル板で、少なくとも一方の表面に、シート6が剥離可能に接着されている。前記シート6には、水平方向に延在する複数の平行線2が10cm間隔で表示され、当該平行線2の一端（図では左端）に、平行線2と平行な側縁（図では上縁）からの距離を表示する数字3が記載されている。

**【0016】**

前記シート6に、鉛直方向に延在する複数の平行線4が10cm間隔で表示され、当該平行線4の一端（図では上端）に、平行線4と平行な側縁（図では左側縁）からの距離を表示する数字5が記載されている

**【0017】**

従って、前記平行線2、4に沿って切断したり、各平行線2、4の交点に釘打ちや鋸留めを行えば、予め寸法計測をする必要はない。

**【0018】**

また、切断等をした後に前記シート6をアクリル板1から剥離すれば、目視する際に、前記平行線2、4が邪魔になることはない。なお、前記シート6は、製造段階や運搬段階において、アクリル板1の表面の保護膜としての役も果たすことになる。

**【0019】**

なお、図示はしていないが、パイプやチャンネルのような棒状の建設部材又は電線等の線状の建設部材に、その延在方向に沿って、所定間隔で前記延在方向と直交する方向に、前記実施例と同様の平行線が表示されていてもよい。そうすることによって、これらを切断する際に予め寸法計測をする必要はない。

**【0020】**

更に、前記実施例では、平行線2、4はいずれも実線で表示されているが、例

えば複数のドットや星印で、点線のように表示されていてもよい。

#### 【0021】

本考案は、前記実施例のみならず、切断可能な建設部材であれば、珪酸カルシウム板、ガラス繊維板、金属板、パーティクルボード等の平板や、軽量鉄骨、電線等の線状若しくは棒状の、あらゆる建設部材に適用が可能である。

#### 【0022】

##### 【考案の効果】

第1の主要な考案では、基材の表面に所定間隔で平行線が表示されているので、当該平行線を目安に切断や釘打ち等を行えば、寸法計測作業は不要となり、段取り作業が短縮され、結果的に建設の短期化に寄与し得る。

#### 【0023】

第2の主要な考案では、板状の基材の表面に、所定間隔で平行線が表示されているシートが剥離可能に接着されているので、当該平行線を目安に切断や釘打ち等を行い、その後前記シートを剥離すれば、寸法計測作業は不要となり、段取り作業が短縮され、結果的に建設の短期化に寄与し得る。また、建設部材自体に平行線は表示されていないので、可視表面となっても表面処理をする必要はなく、更に、シートは製造段階や運搬段階での表面保護の役をも果たす。

#### 【0024】

第3の主要な考案では、延在方向に沿って、所定間隔で前記延在方向と直交する方向に平行線が表示されているので、当該平行線を目安に切断を行えば、寸法計測作業は不要となり、段取り作業が短縮され、結果的に建設の短期化に寄与し得る。